

H25年度 常陽森のボランティア 活動実績報告書



平成26年3月
常陽森のボランティア

目次

1. はじめに
2. 活動概要、実績と会員
3. 茨城町小幡フィールドでの活動
4. 茨城町若宮フィールドでの活動
5. 合宿研修とその他活動
6. 助成金活動と会計報告
7. 反省と今後の展開

1. はじめに

平成21年2月に森林ボランティア団体「常陽森のボランティア」として発足し、5年余が経過しましたが、その実績を残す為、本報告書を纏めました。活動も節目となる5年目となり、今年度も様々な活動を展開してきました。H25年度の特筆すべき項目は下記です。

①若宮フィールド「体験学習の森」の利活用初年度:

3年を掛け整備を進めていた若宮フィールド「体験学習の森」の利活用初年度となり、大きなイベントを実施したことです。


【イベント】: イベントとしては昨年度竹林を整備したことによるタケノコ掘りを4月に実施しました。若宮フィー


ルドとしては初めてのイベントで一般ファミリー（タケノコの会）が参加されました。8月には茨城町農政課と東京都品川区から少年野球チームを呼び、自然体験学習を実施したことです。63名と多くの子供達、父兄が参加し非常に盛り上がりました。

N O	項目	内容	
1	朝のミーティングとジャガイモ掘り		
2	竹林での竹切り体験と竹の器、水鉄砲作り		
3	水鉄砲で遊ぶ&流しソーメン体験		
4	森の中でのカレー含めた昼食&ツリーデッキ体験		

5	スイカ割り& カブトムシ採 り		
	集合写真		

【整備】：若宮地区では委託されている茨城町の予算が認可となり、懸案であった倒木処理の為、チップパーを導入して竹、倒木を4回(1回は花王の補助金、3回は茨城町の予算)に亘りチップ化しました。これにより、森林内が非常にきれいになりました。チップについては、たい肥として使うことと、カブトムシを養殖するために利用することで進めています。また若宮には花王補助金で待望の道具小屋を作ることが出来ました。1.5坪ほどの小屋ですが、機器類を置いておけるので大変助かります。9月の合宿研修で会員で材料を購入し製作しました。

NO	整備内容	日付	内容	備考
1	倒木、竹のチップ化	①H25, 5/5 ②H25, 6/2 ③H25, 7/7 ④H25, 8/4	費用：1回は花王補助金 3回は茨城町で予算化し常陽森のボランティアが請けて和興建設のチップパーを借りてチップ化	

2	機具保管 倉庫の製 作	H25, 9, 2 1~22	花王の補助金をもらい 材料を購入して会員 で研修合宿を行ない 組み立てた。1.5畳の 木製機具保管小屋。	
---	-------------------	-------------------	--	--

②花王みんなの森づくり補助金採択:

提案していた都市緑化推進機構の「花王みんなの森づくり補助金」が採択され今年度より3年間助成されることになりました。全国から応募があり12倍の倍率にもかかわらず、茨城町とすすめている子供達への自然体験学習の計画が認められたもので、8月開催の品川区少年野球チームに対する自然体験学習もその1つです。

③若宮体験農場本格化

昨年より若宮フィールド内にある放棄農地を開墾し、畑にしていますが、今年は本格的にジャガイモ、サツマイモ、蕎麦、やさい(なす、かぼちゃ、トマト、ピーマン他)を植え一部収穫しています。ジャガイモは8月の品川区少年野球チームに対する自然体験学習プログラムの一環として「ジャガイモ堀り体験」を実施し、森の中でカレーに入れたり、お土産として持って帰ってもらいました。また4月には昨年整備した竹林で「タケノコ堀り」をファミリー、子供達と実施し、タケノコご飯、天ぷらにして森の中で食べました。サツマイモは紅あずまとホシイモ用の苗を買い、5月に植え付けて11月に収穫しました。紅あずまは11月小幡元気の森で実施したきのこ収穫祭の際、子供達と焼き芋、さつまスイーツにしておいしく食べました。

N O	項 目	時期	内容	
1	ジ ヤ ガ イ モ	植付け:3/ 9 水遣り:5/ 6		

2	サ ツ マ イ モ	苗植え付 け:5/26 (紅あず ま、ホシイ モ各100 本) 収穫:11/ 3(250K g)		
				
3	蕎 麦	ソバ蒔き: 8/27 蕎麦刈り: 10/31 蕎麦実取 り、乾燥:1 1/3		
				

4	野菜	苗植え付け:5/6	 
---	----	-----------	--

④学生体験ボランティアの受け入れ





花王のみんなの森づくりに協賛した形で8月と10月に東京の学生(東京農大、法政大各1名:男女)を日本NPOセンターを介して受け入れ実習していただきました。また12月に東京で開かれた学生のボランティア活動報告会にも出席しました。11月には小幡でのきのこ収穫祭に茨城大生1名が参加してくれました。少しずつではありますが若い人たちが参加してくれるようになってきました。

NO	項目	時期	内容	備考
1	常陽森のボランティア活動ヒアリング	H25, 9/5	日本NPOセンターより学生2名の取材を受けた。	
2	活動体験	H25, 10/6	学生2名と指導者1名が我々の活動の体験を実施した。腐葉土入れ容器作り、下刈実習、他	

⑤他ボランティア団体との交流

今年は多くの他ボランティア団体と交流が出来ました。今後もっと広がることを期待しています。また会員間で交流を深めました。

N	内容	時期		
---	----	----	--	--

○				
1	山菜採り(山方町)	H25, 4/27		
2	NPOー環の立ち上げ、行事に参加	H25, 4/27		
3	多良崎城址カブトムシ幼虫採り	H25, 5/12		
4	里山たまり場御前山でツリーハウス見学	H25, 5/14		

5	つつみ 祭り参 加	H25, 8/2 4		
6	里見カ ブトムシ の里見 学	H25, 9/1 4		
7	竹とうろ う製 作 講習会	H25, 11/ 4		
8	茨城町 町民祭 り参 加 (プラン ター販 売)	H25, 11/ 4		

その他

・茨城大の地域連携サークルにお邪魔し、学生のボランティア参加をお願いしました。

2. 活動概要と会員

2.1 2つのフィールド活動について

2つのフィールドを各1回/月のペースで活動してきました。茨城町小幡の「元気の森林」では、小幡Ⅰフィールドは「**元気の森林**」と称して本会の**中核となるフィールド**で、かなり畑側の間伐も進んでいます。また0.4haと狭いのですが小幡Ⅱフィールドを昨年度着手し、下刈り、間伐をほぼ終了し今年度はあまり手を入れていません。小幡Ⅲフィールドの一部にも手を付けましたが、H26年度以降が本格的活動になります。

児童養護施設・たちき学園の子供たちとの間伐材を利用したきのこつくりや、森林での自然とのふれあいについては、4年目を迎え昨年に比べ学園参加者も増えてきており、子供たちも楽しみにしています。H24年2月には一般の人15名を中心に「きのこつくりの会」を立ち上げ3回に分けて植菌、本伏せ、収穫の喜びを味わっていただきました。たちき学園と一緒にきのこつくりを楽しんでもらっています。今年度は新会員も入り、参加者が増えています。一般の方にも自然への関心を高めてもらう為、今後も継続して実施します。

【地域コミュニケーションと表彰】 このように、会の理念の一つでもある森林ボランティアを通じて、地域住民とのコミュニケーション作りや一般の方を巻き込んだボランティア活動も少しずつ実績を上げつつあり、今年度茨城県農林水産部長賞をグリーンフェスティバルでいただきました。今年度の目標の1つでしたプロジェクト活動も「ドラム缶による竹炭つくり」「きのこつくり」「木工品つくり」「腐葉土つくりとカブトムシ養殖」については、ある程度計画通り進みつつあります。また会の収入増加を促進する為、イベント収入、間伐材利用もプランター、竹の子の販売等で大幅会費増収が図れました。

NO	内容	時期	備考
1	グリーンフェスティバル2013にて「 茨城県農林水産部長賞 」を受賞	H25, 11/24	

もう1つのH22年度より始めた**若宮フィールド**もかなり下刈り、間伐が進みつつあり、坂場さん以下4名の強力な推進もあり3年を経過して、若宮フィールドの奥までほぼ下刈が進み利用できる段階にきました。このフィールドはH22年3月に茨城町と整備に関する協定書を取り交わし、11月には茨城町、県緑化推進機構を交え若宮フィールドを「体験学習の森」として整備するための打合せを行ない、H23年2月に茨城町関係者との打ち合わせを行なって現状進行状況確認と今後の進め方等を議論して進めています。

【倒木チップ化】 また、今年度は森林、竹林内に点在する倒木処理の為のチップ化を茨城町にお願いしていましたが、予算が認可となり4回(1回は花王補助金による)に分けて大型チップ装置を持ち込んで、チップ化を行ないました。これにより森の中がきれいになりました。

N O	チ ッ プ 化 と 費 用 先	日 付 け & 場 所	内 容

1	第 1 回 : 花王補助金	H25, 6/ 若宮体験 学習の森 倒木		
2	第 2 回 : 茨城町予算	H25, 7/ 7 若宮体 験学習の 森 竹林 内竹		
3	第 3 回 : 茨城町予算	H25, 8/ 4 若宮体 験学習の 森 竹林 内竹		
4	第 4 回 : 茨城町予算	H25, 9/ 1 若宮体 験学習の 森 倒木		

【体験学習広場整備】 体験学習の森の中核となる学習広場にウッドデッキができあがり、懸案であったツリーデッキを森さんの指導のもとほぼ完成のところまで出来上がりました。また今年度は念願であった道具保管小屋を製作したことで毎回運んでいた道具類の一部を保管できるようになりました。

【体験農園の拡大】 今年も中村さんを中心に竹林わきの畑を開墾し、それを広げて350坪の体験農園を作

れました。8月に蕎麦をまき11月に刈り取って蕎麦打ちをして食べることが出来ました。昨年と違い今年は17Kgの蕎麦が収穫出来ました。昨年失敗したソバ蒔きの工夫が実ったものです。また3月にはジャガイモを植え、8月に品川区の少年団の子供達に掘って、カレーに入れるのとお土産で持って帰ってもらいました。サツマイモはマルチングをしたことで昨年と違い多くの収穫(250Kg)がありました。サツマイモは11月小幡でのきのこ収穫祭に焼き芋とスイーツとして子供達に食べてもらいました。なお畑も350坪ほどに拡大したため、中古の耕運機を金子さんの尽力で格安で手に入れることが出来、大いに利用しました。竹林整備も1/3程度ではありますが進んでおり、来年度タケノコ掘りを計画しています。今年度は400Kgほど収穫できたのでは竹林整備が進んできたためと考えられます。H26年度は本格的に「体験学習の森」を近隣の子供たちや地域住民が森林での体験や茨城町と連携し東京都の子供達が利用できるように利活用していく予定です。

【腐葉土作り、カブトムシ育成】

若宮フィールド内でチップ化したチップと落ち葉を利用し、腐葉土作りを行なった。また今年度は他所よりカブトムシの幼虫を取って来て腐葉土の囲いに入れたが、多くがいなくなったり死んでしまい、8月の品川ブルーレーシングの自然体験学習のイベントの際何とか1匹/子供を提供するのがやっとであった。

7月以降にチップ化したチップの中には来年のカブトムシの幼虫が卵をうみ大きな幼虫になっていた。

来年は今年用の苦勞することはないかもしれない。いずれにしてもカブトムシは8月後半では時期が遅すぎる。

NO	時期と内容		
1	H25, 5/25 カブトムシ飼育 囲い2号製作& 100匹幼虫投入 (御前山で捕獲)		
2	多良崎城址で幼虫採り(H25,5,12)		

3	H25, 8/18 自然体験でカブトムシ採り		
4	H25, 10/6 3号腐葉土圃い製作 & 自家幼虫入れ(若宮の森で卵をうんだもの)		

2. 2資金調達と他団体との連携について

【資金調達】

〈補助金獲得〉

活動の基盤を支える資金調達として、昨年夏に補助金申請を出していた「花王・みんなの森づくり活動」から3年に亘り助成を受けることが出来、その1年目となりました。また県の元気な森整備事業の助成金を受ける事が出来ました。その他エコーいばらき、森のボランティアいばらきより助成金をいただきました。

〈会収入増大〉

今年度は会として収入が大きく増えました。大きくは8月に開催した品川区ブルーレーシングを受け入れ会費を頂いたことです。6万円余の収入がありました。またきのこの会、新たにタケノコの会を発足させその収入も寄与しました。きのこの会は新会員も入り拡大してきました。そのた講師費用、寄付金等あり約21万円と昨年度(11万4千円)に比較し大幅に増えました。

【きのこの会】

また今年度は一般の方にも森林含む自然とのふれあい、間伐材の利用などを体験していただくため3年目となった「きのこつくりの会」も会員が増え東京、土浦からの参加者もあり、1年掛けて3回に亘りきのこつくりを体験していただくイベントが定着してきました。これは会費をいただくシステムとしており、補助金ではカバーできない食材等含めた出費をカバーできる仕掛けを作っています。また間伐材利用のプランターやたけのこ販売によって会費不足を補えるようになってきました。今年度はタケノコの会を発足させ4月にタケノコ堀りと森の食事会でタケノコをおいしく食しました。

【合宿研修】

研修に関しては、昨年の潤沼自然公園のキャンプ場と若宮フィールドでツリーデッキ作りの実体験を行ないましたが、昨年度から担当を決め纏めていただくことにしましたが昨年の森さんに続きことしは鈴木さんが若宮「体験学習の森」にテントを張って道具保管小屋を製作しました。

NO	合宿研修 日付け、場所	研修内容	備考
1	H 2 5,9/21,22 朝の合宿ミーティングと基礎作り		
2	小屋が一部出来あがり&夜は懇親飲み会		
3	機具保管小屋完成		

【他Grとの交流】

8月に取り纏めである中村栄三さんの声掛けで第2回目の森林ボランティア養成講座卒業生交流会が水戸で開かれました。9つの団体が参加し楽しい交流ができました。

今年は常陽森のボランティアが活動内容を発表しました。

また御前山にある「里山のたまり場 御前山」でツリーハウスを里見「折橋芸農部」でカブトムシの飼育について教えていただきました。

2. 3活動実績

H25年度は茨城町小幡「元気の森林」と茨城町町有林(若宮フィールド、潤沼自然公園)を整備してきました。一昨年度より若宮フィールドについては、地元の方4名が会員となっただき戦力大幅アップが図られ、引き続き今年も引っ張っていただきました。

今年は最終活動実績として、添付しました定例活動小幡13回、若宮 12回 計25回、非定例活動小幡8回、

若宮1回 計9回 合計 回と前年くらべ大幅に活動が増加しました。大きな怪我等無く無事に3/16に総会を迎えるにいたりました。活動人員も小幡は延282人、若宮は92人で合計 人が参加しました。

9月には第5回目となる若宮フィールドでテントを張り、合宿研修をおこないました。念願であった機具保管小屋を作り、夜は暑い中バーベキューを食べながら、酒を飲み会の運営、今後の計画などを話し合いました。

2月、7月、11月には茨城町小幡フィールドにおいて恒例となった児童福祉施設「樹(たちき)学園」児童や一般の「きのこの会」の人たちとの「きのこ作り」を体験でき、野外での食事会も大いに盛り上がり、懸案であった地域住民とのコミュニケーション作りも進みつつあります。また一般の方に参加いただいた「きのこの会」も好評で、H25年度活動として2月にきのこの植菌大会を開催しました。

今年はまた若宮フィールドの利活用を始め、4月にタケノコの会の人たちとタケノコ堀りやタケノコご飯、てんぷら等森の中での食事を楽しみました。8月には茨城町と共同で品川ブルーレーシングの少年野球チームの子供達や父兄が参加し、ジャガイモ堀り、竹の伐採から始まり竹の水鉄砲づくり、カブトムシ採り、竹の樋を使った流しソーメン、ご飯を炊いてカレー等沢山のメニューによる食事会を開き、自然体験学習を行なってもらいました。

詳細な活動日程、フィールドについては添付資料を参照下さい。

2. 4会員について


会員は若宮フィールドに近い地元の方4名が若宮フィールド専任の活動をしていただきました。今年も特に懸案であった下刈り、倒木処理が一挙に進み、倒木のチップ化をすることで大幅に整備が進みきれいになりました。会員についていえば今年度は残念ながら新規加入会員はいませんでした。しかし学生を含め応援してくれる周囲の人が増えたことは良かったと思っています。今後HP立ち上げなどのより、会員増強促進を進めたいと考えています。なおH25年度名簿を添付致します。イベントには桜井さん奥さん、森さん奥さん、中村栄さん奥さん、日熊奥さんにも大いに手伝っていただきました。


3. 茨城町小幡フィールドでの活動

H21/2の会発足前より活動していた茨城町小幡フィールドは我が「常陽森のボランティア」活動の原点とも言うべきフィールドで、地権者である平沢 昭様はじめ平沢家の皆様によくしていただき、活動的には順調に推移しています。また、地域住民の方々ともコミュニケーションが取れつつあり、今年度もより拡大していければと考えています。

H22年度は小幡Iフィールド以外に小幡IIフィールドへ着手し(0.4ヘクタール)の間伐、下刈りを完了させることが出来ました。またH22年度は間伐材の利用としてフラワーボックス作成やドラム缶を使った竹炭製作などプロジェクト活動も活発化しましたが少しマンネリ化したところもあり来年度は新企画を検討したいと考えています。



【イベント】


N O	イベント & 参加人数	時期	内容	工作	食事	備考
1	きのこ本伏 せ 樹(たち き)学園子 供達、きの この会、 東京ボラン ティア	H 2 5, 7/ 21	きのこ本 伏せ	竹の水鉄 砲作り 竹の容器 づくり	①竹の樋を使っ た流しソーメン、 ②竹パン、③	

2	きのこ収穫祭(樹(たちき)学園子供達、きのこの会、	H 2 5, 11 /17	きのこ収穫祭	竹とうろう つくり	①きのこご飯、 ②きのこ汁、③ 竹パン、④	
3	H26きのこ植菌	H 2 6, 2/ 16	きのこ植菌			

【きのこ作り】

きのこ作りは、児童養護施設「たちき学園」児童の年間計画に組み込まれ自然教育だけでなく、コミュニケーションづくりに寄与しています。また一般の人で構成した「きのこつくりの会」を H23 年 2 月に立ち上げ、今年度はより多くの人に森の恵みを分かち合えるようになってきました。昨年出なかった

N O	きのこの種類	ホダ木	工程	状況	備考
1	しいたけ	コナラ(購入50本)	2/17植菌、7/21本伏せ、 11/17収穫	昨年、一昨年のも のが収穫できたが 数は少ない。 茨城町で放射能検 査。OK	
2	なめこ	アメリカ楓			
3	ひらたけ	アメリカ楓			
4	くりたけ	さくら	昨年植菌した	今年収穫	

			が出なかった		
5	舞茸	コナラ(購入15本)	3/8準備(含水)、3/10煮沸	収穫期待したが出なかった。	

【炭焼き】

1つの炭焼プロジェクトは震災の影響を受け一部窯周辺が壊れたこともあり余り活動は出来ませんでした。懸案の震災で壊れた大谷石が手に入りそれを使った第2窯の作成を行いほぼ出来上がりました。また2つの窯を保護する為屋根を行いました。なお来年度は第2窯は5月には火入れを行いました。構造上の失敗もあり炭ではなく灰になってしまいました。2回失敗したまま現在対策を検討中です。

NO	項目	時期	内容	
1	炭焼き小屋、保管用屋根作り	H25, 3/10	炭窯は雨サラシであったので、竹の保管も兼ね第1, 2窯を覆う屋根を作った。	
2	第2窯での竹炭焼き	第1回:H25, 3/10 失敗(灰になった) 第2回:H25, 4/28 失敗(灰になった) 原因は中央煙突と側面煙突の径が大きすぎ火が竹材に燃え移ったと考える。		

【木工作、竹細工】

間伐材等の利活用推進の為、イベント毎に木工作、竹細工を子供達と実施してきたが小幡フィールドでは今年度下記を実施し、メニューが増えてきた。

NO	名称	実施時期	材料	対象	備考
----	----	------	----	----	----

1	竹の水鉄砲	H25, 7, 21	真竹を使って水鉄砲づくり	たちき学園児童、きのこの会児童	
2	竹とうろう	H25, 11, 17	竹と木及び和紙を使って竹のとうろう作り	たちき学園児童、きのこの会児童	
3	竹の器	H25, 7, 21	竹を使った器作りで流しソーメンの器として使用	たちき学園児童、きのこの会児童	

4. 若宮フィールドでの活動

若宮フィールドは整備を始めて3年経過し9割方整備が進んできました。まだ残っているのは竹林で今後重点的に整備していきます。特に当初篠竹が繁殖していましたがとりあえず3回は下刈が終わりほぼ篠竹は無くなって来ました。茨城町との協定で機器(主として刈り払い機)の貸し出しをしてもらい、燃料の一部も提供願っています。若宮フィールドは町と協定を結んで整備を行なう関係から11月に整備検討会を立ち上げ、町、県緑化推進機構に入っていたき、「体験学習の森」として整備するため、現地調査を含め整備計画を纏めて進めています。今年は利活用を行なうということで町と打ち合わせを実施し、8月に大々的に東京より品川ブルーレーシングの少年野球チーム、父兄の方々に自然体験学習プログラムの体験を行なっていただき好評でした。

【イベント】

N	イベント&	時期	内容	工作	食事	備考
O	参加対象					

1	タケノコ堀り (タケノコの会)参加30名	H25, 4/21	タケノコ堀り	木製ベンチ作り	①タケノコご飯(釜で炊いた)、②タケノコとしいたけの天ぷら、③焼きそば、④	
2	自然体験学習(品川ブルーレーシング少年野球チーム、父兄)参加63名	H25, 8/18	ジャガイモ堀り、カブトムシ採り	竹の水鉄砲作り 竹の容器作り	①竹の樋を使った流しソーメン、②竹パン、③	

【整備とチップ化】

学習のひろば周辺もシンボルツリーの周辺整備、木製パレットをベースにウッドデッキをつくり、またツリーデッキも完成しました。また孟宗竹の竹林があり、H22年度春に竹の子採りをおこなったがH23年度春によりおいしい、多くのたけのこ採りが出来るように竹林内の枯れ木、枯れた竹の伐採、間引きを実施して今年は本格整備の結果400Kgもタケノコを収穫することが出来ました。又今年の大きなエポックとして6月より4回に亘って大型のチップパー機械を導入し、倒木、竹のチップ化を行ないました。1回は花王の補助金で、3回は茨城町で予算化していただきました。4回のチップ化作業で森林内が非常にすっきりしました。また今年は花王のみんなの森づくり補助金を活用し機器保管小屋を建て機材を収納することが出来ました。森林内は枯れ木、倒木の整理を進めています。来年度には近隣小学校の子供たちが少しでも自然を学習できる森に整備できる環境が整ってきたと考えています。今後は多くの知見を得て進めたいと考えます。

【体験農園でのイベント】

昨年より休耕放棄地を体験農園としてよみがえらせ、農園として体験してもらうことを進めていますが、今年は耕作面積を増やし350坪とし多くの作物を栽培し、収穫等を体験していただきました。

N	作物	植え付け、収穫時期	収穫量	状況と反省点	備考
O					

1	じゃがいも	3 / 9 植え付け、8/18収穫	80Kg	8/18の品川ブルーレーシングの子供達に収穫してもらった。マルチングしなかったので収穫量少ない。	
2	さつまいも (苗：紅あずま100本、ほしいも100本)	5/25苗植え付け 11/16に収穫祭用に収穫。12/14に残りを収穫	250Kg	11/17の小幡収穫祭で焼き芋にしてきのこの会会員にお土産の持って帰ってもらった。マルチングしたので収穫量が大幅に増えた。	
3	蕎麦	8/27ソバ蒔き、⑩/31蕎麦刈り、11/3蕎麦の実取り、12/14蕎麦打ち	17Kg (ソバ粉11Kg)	蕎麦の会を作りソバ蒔きから収穫、蕎麦打ちまでを始めた。会員を増やす?	
4	なす、カボチャ、トマト、ししとう、きゅうり	5/6苗を購入し植えた。油粕等肥料投入	なす、トマトは豊作	会員で活動日食した。またお土産に持って帰ってもらった。	

5. 助成金獲得活動と会計報告

【助成金獲得活動】

会費が3000円/人・年と変えませんでした。今年度も従来の県森林湖沼税からの補助金「元気な森林推進事業」からの補助金をいただき活用できました。我々の活動が定着し実績が認められ始めた為、申請そのものは、2件が受理されました。またエコー茨城から合計40000円の補助金も申請して受理され、なんとかイベント関連の費用もまかなえる状態となりました。しかし今年度は昨年度より補助金が大幅に減ったため大きな買い物はできませんでしたが、中古ではありますが耕運機を購入し大いに役立っています。しかし年度末に花王の補助金が決まり来年度の若宮地区の活動に拍車がかかりそうです。しかし来年度は自己活動資金増やす方策を考え、きのこ、ジャガイモ、たけ

のこ、木工品、竹炭等販売を中心に収入を得る計画を具体的に進めたいと考えます。補助金の獲得の詳細は下記を参照下さい。

1) 茨城県農林事務所(森林湖沼税より) (H25,9～H26,3)

「H25年度茨城県元気な森林づくり活動支援事業」 金額: 250,000円

テーマ: 茨城町小幡民有林を「近隣のモデル林」とし、森林整備活動を通じて地域住民とのコミュニケーションを図る。

2) エコーいばらき環境保全基金(H25,3～H25,12) 金額: 40,000円

テーマ: 環境整備とコミュニケーション活動: 児童福祉施設児童とのきのこ作りを通してのコミュニケーション作りやフラーボックス提供

3) (財)都市緑化推進機構「花王・みんなの森づくり活動」 金額: 350,000円

テーマ: 自然環境とその恵みを学ぶ体験学習プログラム

4) 森のボランティアいばらきより活動助成金 金額: 50,000円

【会計報告】

会費に関する入金、支出、残金に関する報告を添付の「H25年度常陽森のボランティア会費報告」に示します。昨年花王のみんなの森づくりの補助金が取れたことで収入面で大幅に改善出来ました。またいつもいただいている県の元気な森づくりもいただきました。また今年は会としての収入が増えました。きのこの会、タケノコの会、若宮でのブルーレーシングからのイベント収入、プランター販売などによるもので、10万円以上増えました。しかし体験農園での種代、他今後とも費用がかかることが予想され、より収入アップが必要です。H26年度も出来るだけ収入を得る手段を考えます。

6. 広報活動

今年度はマスコミ(新聞社等)へのPRとして8月の品川ブルーレーシングとの自然体験学習の取材をうけ茨城新聞に掲載されました。会員増員が大きな課題となって来ています。来年度はHPを立ち上げ(毎年言っていますが今度こそ)PRに努めます。

NO	掲載メディアと日付け	内容	備考
1	茨城新聞 H25, 8/20 付け		
2	茨城町町報	茨城町町報の表紙に掲載された	

7. ボランティア保険、レクリエーション保険の加入

今年も昨年に引き続きボランティア保険の傷害保険を使わせていただきことはありませんでした。会員の平均年齢が上がってきたので怪我の心配があったのですが何よりです。来年度もそうありたいと思います。施設の子供たちやきのこの会の人たちとのイベントがあることから、きのこつくりを対象に「レクリエーション傷害保険」を継続加入しました。

8. 反省と今後の展開

会発足丸5年を経過し、計画していた項目はほぼ達成し、活動も定着してきました。特に今年は活動も活発化し、他会との交流も増えてきました。ただ会員がまだ少なく、HP作成やイベント活動拡大により新会員の獲得に努めます。今後共他の会との連携、公共機関との連携をより強化していきたいと考えます。

——以上——

H26年3月16日
常陽森のボランティア
幹事 一同